

6 芸術

☆高等学校芸術科の「見方・考え方」

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編』より

音楽

音楽的な見方・考え方

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

美術・工芸

造形的な見方・考え方

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

書道

書に関する見方・考え方

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

あなたにとっての芸術とは

好きな（影響を受けた）作家（作曲家、画家、書家等）は誰ですか？

心を揺さぶられた作品（芸術的体験）はどのようなものですか？

生徒にとって芸術科の教員は、最も身近な芸術家であるとともに、味わい方の伝道者でもあります。日常的に、芸術を愛好し芸術文化を尊重している教員の姿から、生徒たちは何かを感じています。

芸術科が大切にしたいこと

高等学校芸術科では、芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、一人ひとりがそれぞれの興味・関心や個性をいかし、感性を高め、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要です。学校を卒業した後も、社会とのつながりの中で芸術を愛好し、生涯にわたり豊かな情操を持ち、芸術文化を尊重する態度の育成を目指していくことが大切です。

「見方・考え方」と「感性」

芸術科における「見方・考え方」の重要な点は、知性と感性を相互に働かせて対象や事象を捉えることです。

知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくこと、客観的事実と感情とを往還させて考えることは、他教科等以上に芸術科が担っている学びです。また、多様性の包容、柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくことなども含まれており、そこにも、芸術を学ぶ意義や必要性があります。

また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではありません。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きです。

そして、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものです。芸術科は、生徒たちの創造性を育む上で大切な役割を担っているのです。

生徒には、どのような姿に育ってほしいですか？

このフォルテは、歌詞から考えると雄大なイメージが湧いてくるな…。どう歌えば、それが伝わるだろうか。



フレーズを長くとってみようかな。言葉一つひとつに重みをつけても良いかな…。よし、歌いながら試してみよう。

美術科の授業例 美術Ⅰ「A表現(1)絵画・彫刻」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕

〈題材名〉 心の形（石材による抽象彫刻）

〈題材の目標〉 「心の形」というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果をいかし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう

導入

学びの見通しをもたせるために、授業の流れを示しましょう。自己の内面を見つめて、主体的に表現活動や鑑賞の創造活動に取り組めるよう、授業の導入や展開を工夫しましょう。

発想や構想の活動 評価の観点【思考力・判断力・表現力】

アイデアスケッチや言葉により、思いや考えを整理させ、**自分が表したい主題を生成**させることが重要です。また、石の特性の理解、単純化や強調など、主題を表現するための構想を練るよう、指導しましょう。

制作の活動 評価の観点【知識・技能】

「心のこもっていない、何を表現したいのか分からない作品」には感動が伴いません。**自分が表したいイメージを具現化**させるために、本当にこの形で良いのかと**主題を追求**させましょう。道具の特性の理解も大切です。

鑑賞の活動 評価の観点【思考力・判断力・表現力/知識】

鑑賞も創造活動です。作品に対して、自分としての意味や価値をつくりだすよう指導しましょう。また、**根拠を持って互いに批評し合う活動**を通して、自他の特性や個性について理解を深めさせるよう配慮しましょう。

導入～鑑賞の活動まで 評価の観点【主体的に学習に取り組む態度】

自分が表したい主題を明確にもち、イメージを具現化することを重視して表現します。また、他者から承認される鑑賞の活動を行うことにより、自己肯定感を高めます。

表現と鑑賞の活動を通して、美しいものやより良いものを求めていこうとする豊かな情操を養います。



芸術科の授業でおさえたいポイント（教材研究、安全指導は必須！）

①芸術科における技能とは

「～が上手」というような単なる技術の巧拙ではなく、意図に基づいて表現するための技能であることに留意する必要があります。

②生徒が表現意図をもつために

主題の設定や作品の鑑賞、作品の様々な背景に触れるなど、題材（書道は単元）計画を工夫することで、「〇〇を△△のように表現したい」という気持ちを引き出すことができます。

③題材（単元）同士を連結させましょう

一つの題材（単元）の学びが独立して閉じてしまうのではなく、一年間を通した学びとなるよう関連付けましょう。そのことによって、学習の質を高めることができます。

④学んだことの意義が実感できるように

演奏発表会や作品の展示、掲示物を作成するなどして、芸術科の見方・考え方が、生活や社会の中で活用できることを体験させましょう。